

パブリックコメントの回答について

「第6次定員適正化計画の策定及び定数条例の改正について」のパブリックコメント募集手続きについては、令和7年10月20日から11月10日まで募集し、1名から4件の意見が提出されました。いただいた意見と市の考え方は、以下のとおりです。

	いただいた意見の要旨	市の考え方
1	内容を見ると「定員の適正化」ではなく、単純な「採用計画」に近いのではないか。特別の案件が発生するたびに「適正化」と称して「定員」を変えていたのでは「定員」の意味がない。今回の「前倒し採用」についても「定員の適正化」ではなく、「特例措置」とでもすべきではないか。新しい時代に沿った新しい人事管理制度について検討してはどうか。	本計画は、各所属の業務量や生産性、市の財政状況等を総合的に考慮し、市が施策を実施するために必要な人数を年度毎に算出したものです。前倒し採用についても本計画に含めて管理することが適切と判断しました。
2	一般事務職の採用理由として「令和12年度以降の大量退職に対応するため、前倒し採用を実施」とあるが、これでは単に数合わせではないか。これから採用される人は、退職者の代わりではなく、これまでの旧態依然の古い体質に染まらない新しいデジタル化社会における中心としての活躍が期待される人材だと考える。 令和12年度以降に退職する人とは仕事に対する考え方や取り組み方が違って当たり前であり、「前倒し採用」は全く理解できない。 多治見市役所は、他の自治体がどのように変わろうと、これまでどおり、退職者が長年やってきた業務を今後も続けてやって行くつもりか。	前倒し採用の主な目的は、近年の採用難の状況に対応すること、職員の質を確保すること、年齢構成を平準化することです。デジタル化・DX化の観点については、第5次多治見市情報化計画に基づき自治体DXの推進をしています。これから採用する職員のみならず、市役所全体で業務の効率化・カイゼンに取り組みます。
3	そもそも「計画」と言いながら、将来の自治体業務の在り方を全く踏まえない今回の目的がよくわからない。 人口減少などに伴い財政環境が厳しさを増すなかで市役所だけがこれまでの業務をこれまでのやり方でこれまでの要員数を前提に行って許されるはずがない。 消防職や保育士・幼稚園教諭、技能労務職などは別として、一般事務におけるアナログ的な業務をデジタル化しなければ、行政といえども世の中のDXの波に取り残されてしまう。	デジタル化・DX化及び業務効率化についての考え方は2のとおりです。デジタル化・DX化により生まれた時間や人員を、多様化・複雑化する行政課題や市民ニーズの対応に充て、サービスの向上に努めます。

	大量退職はデジタル市役所の実現に伴う要員数削減対策のまたとない機会になる。なぜわざわざ補充してまで将来的な余剰要員を作るのか。「週休 3 日制」へ移行するための補充としか考えられない。	
4	現在進められている D X 化をはじめ将来の本格的な A I の導入を前提としたデジタル市役所の構想が一般化する中で、これまでの人手による非効率な事務処理を前提とした「定員適正化計画」に何の意味があるのか。 例えば、次の事項については、今回の計画を策定するにあたってどのように考えたのか。 ① 窓口受付事務の大幅な削減 デジタル化の進展により、市民は窓口に出向かなくても行政サービスが受けられるようになるため窓口事務の大幅な削減が可能になる。また、ワンストップ窓口の実現は、これまで多くの窓口でそれぞれ行われていた受付事務が一本化さる。 ② 紙媒体から電子媒体への切り替え 現在、市民への税金や保険関係などの通知は紙に印刷されて郵送されてくるが、いずれは年金関係の通知（源泉徴収票、年金振込通知書等）などと同様、紙媒体から電子媒体に順次変更されていくものと考ええる。これによって各種帳票の印刷作業や発送作業などの省力化が可能になる。 ③ 本格的な A I の導入 本格的な A I の導入により、これまでの人手による行政サービスの多くが自動化されると言われている。多治見市においても第 8 次総合計画において、「デジタル技術の活用による業務の効率化などを進める」とされている。	例示いただいた事項は、本市においても取り組みはじめたところです。デジタル化・D X 化により生まれた時間や人員は、多様化・複雑化する行政課題や市民ニーズの対応に充てることを想定しています。